



左の水槽は、区内の学校の玄関横に設置されているものです。水槽の住人は、メダカです。この学校は、用務主事さんが、メダカに優しい環境を作った上で、定期的に季節に合わせて飾り付けしてくれています。2025年は、2月2日が節分、2月3日が立春でした。

『節分の鬼が手にするスマホかな』

『立春の空き地に猫のにらみ合い』

高学年の授業では、この時期のお勧めの季語をいくつか紹介しました。明るい

感じのする「早春」や「風光る」、2月の別名「如月」など。イメージを伝えながら、「どこで、だれが、どんなことをしているか」を五音・七音で考え、季語をつけてみました。講師が例句で『早春の二人で上のぼりぼう』を挙げたら、高学年児童は「その二人は、男同士か女同士か男女か」で盛り上がりました。

右の写真は「木の芽」です。「このめ」とも読みますが、俳句では雅語で「このめ」と読むことも多いことを伝え、「木の芽」の下に付ける言葉で、感じ方が替わることを示しました。講師が以下の例句を示し、児童が感じたことを交流し合いました。



『木の実晴れ上下にゆれるランドセル』

『木の芽寒テストあること忘れてた』

『建て替えの近づく校舎木の実風』

まとめの句会では、児童の作品を講師と添削し、作者も周囲も納得しました。

児童『木の芽道進む自分を追いかける』→添削後『木の芽道自分が自分を追いかける』

児童『立春も祝日にしてすずめさん』→添削後『立春は祝日だよと言うすずめ』

中学年では、「梅二月」という時候の季語や、「風船」「しゃぼん玉」「風車」「ぶらんこ」など、児童が遊んだ経験のある春の季語で俳句を作りました。紙風船を見せると児童は大喜び。しぼんでいた紙風船が、ポンポンついているうちのパンパンに膨らんでいく様子に興味をもったり、実際にリレーをしたり…。

児童の作品を紹介します。

『鉄棒でだんごまわりだ梅二月』

『パソコンでスライドづくり梅二月』

『鬼ごっこ捕まり追いかけて梅二月』

『教室で漢字の直し梅二月』

『黒板にチョークが走る梅二月』

『かけ声は「はいはいはい」と紙風船』

『ふわふわとゴールに届け紙風船』

『紙風船浮いて押されて旅をする』

児童の日頃の様子を垣間見た気がします。

